

卅三間堂棟由来（祇園女御九重錦 三段目）登場人物相関図

お柳 平太郎の妻／柳の精霊



柳の木と夫婦だったが、法王の前生である蓮華王坊が柳の枝を落としたため仲を裂かれ、蓮華王坊を枝で貫く。その後、長い時が経ち、人の姿で茶屋を営んでいた時に、季仲の鷹が柳の枝に引っかかり危うく切られそうになつたところを、熊野権現を訪れていた平太郎に助けられる。

平太郎が柳の生まれ変わりだと気づいたため、自ら求婚して平太郎と現世での夫婦となる。ちょうどその時、謀叛の賊に襲われた白河法皇一行を夫婦で助けた。以来、家族で幸せに暮らしていたが、息子みどり丸が5歳になった時、法王を救った褒美を持って来た進ノ蔵人から、三十三間堂建立のため、自分自身である柳の大木が伐られることを知らされる。柳が伐られれば「家族と別れなければならない」と平太郎に話すが分かってもららず、悲しみの中で、眠る平太郎に過去からの縁を告白し姿を消す。その後、事態を理解し嘆く家族の前に現れ蓮華王坊の觸體を渡して再び消える。

みどり丸

平太郎とお柳の息子
伐り倒された柳が街道筋で、突然動かなくなつたところに駆けつけ、自ら綱を引き柳を動かす。

むざんなるかな幼き者は、
母の柳を、都へ送る、
元は熊野の柳の露に、
育て上げたるそのみどり子が
ヨイ／＼ヨイトナ

それこそは白河の法皇の前生の御頭なり。
それを手柄に御身の上、再び出世をなし給へ

觸體がひっかかる

作品概要

題名：卅三間堂棟由来
(祇園女御九重錦三段目外題)
作者：若竹笛躬 中邑阿契
初演：宝暦十年（1760年） 大坂豊竹座
分類：時代物
構成：一段（全五段の三段目のみ）

関連図参考文献

- 1) 第31回文楽鑑賞教室 平成26年6月 プログラム・床本
- 2) 第138回文楽公演 平成27年4月 プログラム・床本
- 3) 第151回文楽公演 平成30年7, 8月 プログラム・床本



前生 柳(なぎ)の木

柳と枝を絡め合わせる夫婦だったが蓮華王坊に枝を落とされ仲を裂かれる



横曾根平太郎

お柳の夫

父の敵を探すため熊野に祈誓に訪れた時、柳の枝に引っかかった薄雲の足綱を弓で射止める。その時、敵である時澄に出会い、多勢に無勢と仇討を諦め、母と共に悲しんでいた。様子を伺っていたお柳に茶屋で休むよう勧められ、同時にプロポーズをされ夫婦となり母も共に暮らしへはじめる。前生のことは覚えておらず、お柳の切実な気持ちに気づいてやれない。しかし、夢現で聴いた告白と、お柳が消えた事で事態を理解する。

平太郎の母



熊野で時澄が敵とわかり討とうとするが平太郎に多勢に無勢と諫められ諦める。5年後、訪ねて来た進ノ蔵人をお柳と出迎え院宣を伝えられる。

横曾根次官光當
平太郎の父
時澄に殺される。



白河法皇

熊野詣の帰路、謀叛の賊に襲撃されるが、平太郎とお柳に助けられる。三十三間堂を建立し、お柳の正体である柳の梢に刺されたままの前生の觸體を納めれば、悩まされている頭痛が治癒すると、熊野権現からのお告げを受ける。

仕える

平忠盛

法皇の家臣
法王の熊野詣に供奉していた時謀叛の賊に襲撃されるが、平太郎とお柳に助けられる。

院宣を指示

仕える

院宣を指示

忠盛の使者として熊野詣で法王を助けた褒美を持ち平太郎を訪ねる。また、法王の頭痛平癒のために三十三間堂を建立し、柳に残る前生の觸體を納めること、そのため柳を伐り、棟木として寄進するよう院宣を伝える。



進ノ蔵人 平忠盛の家臣

忠盛の使者として熊野詣で法王を助けた褒美を持ち平太郎を訪ねる。また、法王の頭痛平癒のために三十三間堂を建立し、柳に残る前生の觸體を納めること、そのため柳を伐り、棟木として寄進するよう院宣を伝える。